



発行：堺アートカウンシル（堺市文化観光局文化部文化課内）

発行日：2023.2.10（不定期に発行） お問い合わせ：bunka@city.sakai.lg.jp



視察レポート | 「第37回定期公演オペラ

『愛の妙薬』」堺シティオペラ一般社団法人



フェニーチェ堺大ホールで開催された2日間公演のうち初日に視察しました。開場中には演出の岩田達宗氏によるプレトーク。その後、上演されるオペラが如何に日常の我々と同じ様な人物とその感情で構成されているか、という内容で作品の理解と親しみやすさに貢献していました。ロビーでは物販の他にリハーサル時や通し稽古の舞台写真が展示され、本公演が主催者により独自に制作されていることを来場者も理解できるようになっています。

内容は、ゲストの歌手、定期的に共演している関西在住の歌手のバランスもよく、また自前の合唱団も高いレベルで重要な役割を果たしていました。村の野外劇場を模した舞台もシンプルで鑑賞の邪魔をしません。字幕やセリフでは日本語（関西弁）を混ぜ、作品の持つ喜劇性の範囲でノリや笑いも取り入れ、地元の劇場で芝居を見る楽しさも程よく効いています。

来場者も多く、また客席の反応もよく、定期的に来場する固定のファンを獲得している様子が伺えます。コロナ禍での中止、延期が続き、運営にも苦労されたと想像しますが、2年越しで本公演を実現されたことは長年の実績と努力の成果であり、舞台芸術創造発信区分の補助事業に相応しいものでした。

（2023年1月14日視察／令和4年度堺市文化芸術活動応援補助金採択事業）

視察レポート | 「利休生誕500年記念事業」

NPO法人堺観光ボランティア協会

フェニーチェ堺の玄関先の大きなクリスマスツリーが青空に映えて、家族連れや訪れる人たちが記念撮影をして立ち止まっています。そこに、黄色の上着の堺観光ボランティア協会のみなさんの声が重なります。おもてなしの声かけがあちこちから届き、ボランティアさんたちの層の厚さを感じます。

公開講演会の緞帳があくと、舞台から三味線の音が力強く響きました。もののはじまりなんでも堺とされますが、三味線も堺発祥だとか。司会は協会の方が担当されています。「秀吉に天下を取らせた男 千利休」と題して、作家の伊東潤さんが軽妙な語りで1時間。休憩を挟んで公開パネルディスカッション「堺と茶の湯」が1時間半。博識のパネラーも個性的で、予定調和でない緊張感があり、ユーモアもあり、興味深く耳を傾けました。利休が望んでいたのは、武力や争いではなく、文化によって天下静謐であること、それを実現するために茶の湯をいかしました。自由都市・堺から、千利休は生まれ、その街は世界への扉が開かれている数少ない街でありました。文化を支えたのは経済でもあったと伊東先生が解釈されているのを聞きながら、現在の経済と文化の関係に想いを馳せ、堺の街に埋め込まれた記



堺アートカウンシル（堺AC）は専門知識を有する人材が文化芸術に携わる人たちを支援することで、文化芸術の振興を図り文化芸術を活用して子育て、教育、福祉、観光、地域の活性化といった様々な分野の社会的課題の解決をめざす組織です。

憶や願いに触れたいと思いました。

(2022年12月10日視察／令和4年度堺市文化芸術活動
応援補助金採択事業)

視察レポート | 「茶室における和紙文化～湊紙を用 いた写真表現」 山本柱

「ミュシャの生きた時代の写真術～Classical Photograph®の魅力～」 若林久未来



12月上旬、古典写真技法を用いた写真の展覧会が2つ同時期に開催されました。日曜の午後、まずはさかい利晶の杜、三千家茶室が会場の「侘び寂び」へ。堺発祥とされる漉き返しの和紙(再生紙)「湊紙」に注目し、それが使われてきた茶室空間において、和紙を用いた写真作品を展示する企画です。写真のテーマは、主催者がかつて陸路で旅したシルクロード。三つの茶室が連なる大広間の周囲に巻物が広げられており、旅路に沿って移り変わる風景が順にプリントされています。移動しながら観ていくと、まるで小さな旅をしているようです。床の間には、旅で入手したという古代ガラス器の写真が掛軸に表装され掛けられています。写真は湊紙に鶏卵を塗った印画紙に紫外線で露光するという古典技法を用いたもの。趣向にも茶室にもじっくりと馴染んでいます。この日は、和服の主催者による抹茶の振る舞いもあり、旅のお話も丁寧にしていただきました。旅人であり写真家である主催者が亭主を務める、一風変わった茶会に招かれたような鑑賞体験でした。

続いて、堺 アルフォンス・ミュシャ館、ギャラリーつじが会場の「ミュシャの生きた時代の写真術～



Classical Photograph®の魅力～」へ。こちらは様々な古典写真技法で作品制作する作家たちのグループ展です。撮影、プリントに技術と手間を必要とする技法にも関わらず、あえてそれを用いることで生み出される作品は、一言で写真作品とは言いがたい奥行きや存在感を感じ、じっと見入ってしまいます。単なる懐古ではなく、現代だからこそ際立つ価値を多くの人と共有したいという思いが伝わってくる企画でした。

古典写真というそれほど知られていない分野で活動をしていく上で、異分野と掛け合わせた展覧会で出合いの可能性を広げたり、展覧会の開催時期を合わせて集客の相乗効果を狙ったりするアイデアは、同じような条件で活動している人々のヒントになるのではないかと思います。

(2022年12月11日視察／令和4年度堺市文化芸術活動応援補助金採択事業)

公開案内 | 堺アーツカウンシル活動報告書、 堺市における文化芸術活動の実態調査報告書

令和3年度の堺ACの活動についてまとめた報告書と、令和3年度堺市文化芸術活動応援補助金採択事業の来場者・参加者アンケート調査の報告書が公開されています。堺ACの活動の全体像を示す資料であるとともに、活動の中で見えてきた市内の文化芸術活動についてお伝えする資料にもなっています。ぜひご覧ください。



堺AC
活動報告書



文化芸術活動の
実態調査報告書

堺アーツカウンシルでは、堺市ホームページ、Twitterなどで、情報を発信しています。

ホームページ：堺市ホームページ (<https://www.city.sakai.lg.jp/>) 内。

画面右上「目的別検索」にて「堺アーツカウンシル」で検索。

Twitterアカウント：@SAC_sakaibunka



ホームページ



Twitter